

5. 肉用牛繁殖農場における生産性向上及び更新推奨に向けた取組み

宇佐家畜保健衛生所

○河野華子・丸山裕二・平島慎也・(病鑑) 利光昭彦

【はじめに】管内 A 農場は繁殖雌牛 111 頭、繁殖育成牛・子牛 66 頭 (2024 年 2 月時点) を飼養する繁殖肉用牛農家である。繁殖管理のため、牛の行動モニタリングシステムである U-motion (デザミス株式会社) を利用している。当農場は牛伝染性リンパ腫 (EBL) 清浄化を目指し、2019 年から当家保と共に対策に取り組んでいる。また、前年度から肉用牛繁殖技術強化指導チーム (繁殖 PT) の指導対象となり、振興局と共に生産性向上のための取組みを行ったので、報告する。

【取組みの概要】2023 年 11 月から月 1~2 回の繁殖検診を行ってきた。その結果、発情発見率が低い、初回授精日数が遅い、治療に反応しないといった理由で長期不受胎牛となった牛が放置されている状況であると判明した。そこで今回、その対策として (1) 初回授精日数短縮のための定時人工授精の推奨 (2) EBL 清浄化対策も兼ねた牛更新の推奨 (更新対象の見える化) を実施した。

【対策】

- (1) 定時人工授精の推奨: 2024 年 7 月より、分娩後の初回授精日数を短縮するため空胎日数 85 日以上 (分娩後 2 回以上発情見逃し又は妊娠鑑定時に不受胎) の牛にウシ臍内留置型ホルモン製剤 (PRID) を利用した定時人工授精を推奨した。
- (2) 更新対象の見える化: 牛をスコアリングして更新対象牛を見えやすくした。スコアリング対象を経産牛かつスコア作成時に未受胎の牛とし、項目として①空胎日数 (0~4 点: 日数が長いほど加点) ②EBL リスク (0~3 点: リスクが高いほど加点) ③年齢 (9 歳以上の牛は 4 点加点) の 3 項目を設定し、スコアは 11 点を上限とした。設定理由として、①②については経営主に聞き取りを行い、複数回授精しても受胎しない牛かつ EBL リスクが高い牛を優先して更新したいという意向だったため設定した。③については高齢・高産次の繁殖雌牛から生産された子牛は低価格で取引される傾向にあり、生産性向上のため設定した。スコア算出には U-motion のリストを利用し、リストを Excel に出力することで迅速に算出できるようにした。スコア評価について、4 点以上 (2 項目以上で加点、空胎日数 300 日以上、又は年齢が 9 歳以上) の牛を更新推奨とした。

【結果】

- (1) 空胎日数 85 日以上のため定時人工授精を実施した頭数は 19 頭であった。定時授精を推奨する前と比較して、分娩後の初回授精日数の平均値が 12 日短縮された (2024 年 1~6 月: 98 日、7~9 月: 86 日)。受胎率については調査中である。
- (2) 更新推奨牛は 15 頭となり、特にスコアが高い 8 頭 (うち EBL 陽性牛 5 頭) が更新され肥育へ移行した。更新の結果、スコアリング対象牛の空胎日数の平均値が 265 日から 184 日、中央値が 138 日から 130 日に減少した。